

# 建 築 家

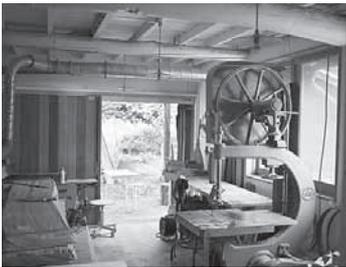
# 通 信

2015.9.30

vol.107

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会  
J I A JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>  
E-mail [info@jia-nagano.com](mailto:info@jia-nagano.com)



工房



漆工房のようす



白漆鑄片口



君の椅子



2011-10cmリノバージョン

## 「建築と工芸」 ————— 木工デザイナー 三谷 龍二

家の雰囲気は、そこに置かれた家具什器によって印象が大きく違って来る。一般には建物の完成は竣工時をいうのだろうが、その時点はまだ半分ぐらいの出来上がりに過ぎない。その後家財が運ばれ、家族が到着する。部屋に明かりが灯り、食卓に家族が集まる頃から、未完の部分を作る作業がはじまるのだ。食う寝るところ住むところ。家族に起こるさまざまな出来事や、思いがその家に刻まれていく。茶碗やコップ、椅子やルームシューズなど、工芸もまた、家族の暮らしに寄り添い、共に年月を経ていくのだった。

高度成長期が終わり、モノ余りの時代になった頃、僕たち工芸の世界において、ある変化が起きた。それはオブジェ焼に代表される「鑑賞工芸」全盛の時代が終焉し、日常性に回帰した「使う工芸」の隆盛という変化だった。

戦後の復興期から高度成長期は、ものが不足していたから、作れば売れた時代が続いた。そして、西洋に対する憧れもとても強かった。そうした背景のなかで、企業は新たな消費を生み出すために、モデルチェンジを繰り返し、ほかと違う「差異性」や「新奇性」を追い求めて、活力にしてきた。ところが90年代に入って、経済が縮小しはじめた頃から、ようやく落ち着きを取り戻した消費者が、自分の身の回りを見渡すと、家庭にも、街にも、ものが溢れ、息ができないくらいになっていることに気付いた。そして僕たちは反省した。もうモノはいらない。新しいものも、刺激もいらない。これからはもっとものごとを吟味しよう。本当によいもの、本当に自分たちが欲しいと思うものだけを選んでいこう、と思うようになった。もちろんそうした社会の変化に合わせて、生産者も変化していった。今はものを作る技術だけでは足りない。作ったものが世の中に本当に必要なものか、それを判断するもうひとつの眼をもつことが必要だ。作る技術を学ぶだけでなく、たくさんものを見て、それを使ってみて、本当にいいものはどのようなものか、作る側も自分の体を通して知ることが大切になった。そうでないと、高い技術と経験で作ったも

のも、消費者の選択の篩に掛けられ、下に落ちてしまうからだった。

そうした変化は、当然工芸の世界にも波及した。自己表現、個性。他にないもの、新奇なもの。

作家はそれまでは自分の作りたいものを、一方通行で発表し、社会とのキャッチボールはほとんどなかった。だから独りよがりで、現実感覚を失い、それぞれ個別ジャンルの世界のみで閉じてしまって、タコ壺化がおこっていた。つまり、一般の生活者の感覚から遠く離れてしまったのだった。

一方、消費者はバブル期の贅沢のなかでもの選択眼を磨き、随分と賢くなっていた。宣伝文句に惑わされず、自分の尺度をもつようになった。人の住めない住宅。オブジェのような使えない器。彼らは「そんなのはいらない」、と思い、それよりも「つまらなくても、価値のあるもの」。「特別でなく、普通のもの」がずっといいと、思うようになっていった。そうした受け手の変化に呼応するように、作る側の論理を抑制し、使う側の視点でモノを作る人が増え、使うひととのコミュニケーションを回復させながら、暮らしで必要とされるものをつくる作家が増えていったのだった。それが30年ほど前に、僕たち工芸の世界に起きたことだった。

生活の場所からものを考える。そのことの大切さはますます大きくなっていくように思う。すべてが情報化され、確かさもスピードが求められるような時代においては、群衆のなかの一人ではなく、答えをほかの誰かに頼るのではなく、自分自身で行なわなくてはならない。ひとりひとりが自分たちの暮らしの波打ち際に判断をしなくてはならないのだった。だから「生活」を大切にというのは、ただ日常性のことをいうのではなく、もっと身体の深いところ、生のリアルな実感を回復しようというものだったように思うのである。



# 夏のセミナー

## まちなみウォッチングin高遠+技術交流会



### まちなみウォッチングin高遠

倉田 政人



7月中旬、夏のセミナーと合わせ高遠まちなみウォッチングが行われ参加しました。

同市内に住む私ですが、なかなか高遠の街中を歩く機会がなく数年ぶりの散策でした。

当日は梅雨の晴れ間、今シーズン初の真夏日となり、山間の城下町の為暑さに加え坂のアップダウンに大汗かきながらのウォッチングとなりました。

古くは高遠藩の城下町として栄え、伊那・茅野・諏訪に接し、杖突街

道・秋葉街道・伊那街道を繋ぐ宿場町でした。軍事・流通上の交通要衝で今も当時の名残をまち並みや建造物等にとどめています。

道・秋葉街道・伊那街道を繋ぐ宿場町でした。軍事・流通上の交通要衝で今も当時の名残をまち並みや建造物等にとどめています。

今回案内をデジタル古地図アプリ「高遠ぶらり」を利用しながら図書館職員の諸田さんにガイド頂きました。端末片手に古地図上を巡るまち並みは、同時に異なる時代と空間を感じながら新たな感覚で巡ることが出来ました。

身近な街高遠でしたが、印象と違う新たな魅力を発見でき、関わる伊那まち商店街のまちづくりにヒントを得る良い機会になりました。

### 技術交流会

塩澤 賢一・都筑木材(株)



7月11日 JIA「夏セミナー」において弊社の地元であります伊那地域での開催と、技術交流会に発表の機会を頂きましたこと誠にありがとうございます。

技術交流会では、弊社は創業明治23年から木材業を中心とした事業を展開してまいりました。近年においては市場動向もあり外材中心の事業を展開しておりますが、ここ10年位前より少しずつでは、ありますが国産材の利用にも力を入れており、今回ご見学頂きました、木質事業部

も、地元の有効な資源であります、木材を製材・乾燥・加工と一揆貫通の生産できる事業体となっております。

また今回ご見学いただけませんでしたが、近くにプレカット工場もあり構造から内装までの生産体制を事業展開しております。

ここ近年は国産材も活発にご利用頂いており、地元の地の利を生かした住宅づくりや機能建材を利用した低炭素住宅などこれからも多くの方々にお教え頂きます様よろしくお願い致します。

最後になりますが、講習会・懇親会ともに私にとって勉強になりました、JIAの皆様のご活躍心よりご期待申し上げます。

### 技術交流会

山崎慎一郎・山崎屋木工製作所



2015「夏のセミナー」は、伊那市高遠町・箕輪町にて、技術交流会、講習会でお世話になりました、株式会社山崎屋木工製作所 山崎慎一郎です。

技術交流会では、「木を使える喜び」～Curationerから見るウッドサッシの未来～の内容にてお話をさせて頂きました。

この日本では、開口部からの熱損失が高く、省エネとは言い難く、健康被害を招く恐れがある住宅が多く存在している事が問題と考え、地域産

材を使用できるウッドサッシ開発を進めており、環境省の「超高断熱サッシ開発」プロジェクト等を説明させていただきました。今年度も長野県林務部の「信州の木先進的利用加速化事業」による「地域材を利用した遮炎性能を有する木製断熱サッシの新製品開発・普及事業」を進めています。

諸先輩、皆様の前でのお話で、とても緊張しておりましたが、皆様のお気遣いを戴き、懇親会も有意義に参加させて頂きました。

今後とも、JIA長野県クラブの益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

### フィールドワークin松代・柴石編&プチまち歩き

長島 三夫



下崎委員長率いるまちづくり委員会のフィールドワークでは7月3日長野市松代の柴石採掘場を訪ねる。まずは称津産業工場に集合して採石現場へ移動、天空の城ラピュタを想像させる。こんな街中に異次元的な場所があることに

驚く、高速道路からもすぐなのであれからは通るたびにあそこにラピュタがあるんだと確認してしまう。そこでは、現在の建築工事における現状等の説明を受け、我々の見識の無さが現在の石工事だけでなく地場産業を低迷に追い込んだひとつの理由でもあることを痛感させられる。では、これからとんとん柴石を図面に織り込もうと思っても遅すぎるかも！（やはり高価のものになってしまっている）いや、今からでも間に合う！さあ皆さん！地元のものをもっと学んでとんとん活用しようではありませんか！

柴石はここ柴地区で取れた石のことを指します。松代地区では歩道やモニュメント等随所に使われています。そんなまち並みを、松代文化財ボランティアの案内で歩き、赤羽さんの案内で文武学校に隣接する松代小学校の見学して、松代の文化を味わってきました。先日も休日に松代を訪ねると大勢の観光客がおり、文化の中心になっていく松代を期待して、「柴石フィールドワーク&松代プチまち歩き」の報告とさせていただきます。



第10回  
**ものづくりの楽しさを伝える  
 雑学講座**  
 講師：新井 優



上田情報ビジネス専門学校  
 建築学科 インテリア住環境コース

今井 彩乃

この度は、様々なお話と体験をさせていただきまして、誠にありがとうございました。

第1部では、新井先生の素晴らしいお話をお聞きすることが出来、とても参考になりました。中でも、私が一番印象に残っているのは、梁のむき出しの建物と天窓が多くついている家です。特に、天窓がステンドグラスになっていた建物は、神秘的で魅力あふれるものとなっており、勉強になりました。

第2部の、構造から考える設計はとても楽しいものでした。普段骨組みから空間を考えることをしていなかったのが、頭の中で組み立ててどういう形にするのかを想像することはとてもわくわくした時間でした。私は平面形を四角い家にしましたが、屋根をどのような形にしたらよいか悩み、終了時間となってしまったので、途中までしか書くことが出来ませんでした。しかし、考えている時間がとても充実していたと感じます。

今回の体験をこれからの設計課題等に活かしていきたいと思えます。



上田情報ビジネス専門学校 出前講座  
 片倉 隆幸



9月4日JIA長野地域会の恒例の出前講座がUejobiにて開催されました。

今回は長野地域会副代表の新井優さんの講義「構造からデザインする木造の建築」は建築を巡る社会的背景から県産材を用いた家づくりへと学生たちにとっては大変新鮮な講義でした。

続きまして、空家の多くなった日本の現状をとらえたリノベーション実例、木造の架構から空間とデザインを考えた実例のスライドレクチャー等を進めていただきました。

講義終了後設計演習に入りました。この演習は「構造からデザインする木造の建築」という出題にて長年講師を務める長島さん、担当教官の甘利先生と新井さん僕の4人が指導にあたりました。

少しヒントを与えると伸びていく学生たちを見ながら前日までどうしようかと悩んでいた学生たちの閉塞感がこの講義後の演習にて解決されてきたことを大変うれしく思いました。

新井さんありがとうございました。学生たちと一緒に楽しむことができました。学生の皆さんも引き続き気持ちを集中して頑張ってください。

JIA環境セミナー

安藤 政英



6月24日あがたの森文化会館での「暮らしから始まる住宅・環境デザイン実践セミナー」に参加してきました。昨年からの省エネ法講習会が何回か建築士会を通じても行われ参加してきましたがイマイチよく理解できないうでした。建物一次エネルギー消費量算定プログラムでは断熱材の厚さや種類、窓の仕様などにより数値化して省エネ住宅かどうかを判断するそうです。過去の建築家の創造してきた名建築と呼ばれてきた建物を事例に出して「これからはこういう建物は作れなくなります」と講義され、古民家の断熱の甘い建物でも太陽光発電パネルをつけたらエネルギーを生み出しているのが省エネ住宅認定などと意味がよくわからない。石油製品の断熱材をガンガン入れて省エネビジネスにまんまと乗せられて作ることが本当に住まい手のためになっ

ているのかと疑問を持っていました。

今回の講習は住む人の暮らし方から話が進められ建築設計に携わるものとして興味深いものでした。特に、質疑応答で下崎さんご自邸の数値を挙げられ薪ストーブを導入しエネルギー消費の少ない建物に住まわれているのですが、「その分自分のエネルギーを使っている」という言葉はまさに「エネルギーの法則」をみました。住まいの「居心地」というのは決して数値だけで語られるものではないと思います。先日テレビを見ていたら「これからの住宅は省エネで選ぶ時代です」という言葉が耳に飛び込んできました。楽しみながら暮らし笑エネというものもあっていいのではないかと考えさせられました。そしてまたなにより中東の石油に頼らない、原発が作る電気に頼らないという安全保障の問題からも省エネを考えていかなければならないと思いました。

香山先生と語る会

小林 千恵・news設計室



6月20日に軽井沢の香山先生の別荘にて草刈り及びバーベキューが行われました。

季節柄晴天とはいきませんでしたが、暑すぎず寒すぎず過ごしやすい一日でした。

青々と茂ったお庭には沢山の植物が植わっていて、花を抜いてしまわない様雑草を選びながら除草作業をしました。お庭が広いのでなかなか全てを綺麗にする事は出来ませんでしたが、少しは草刈りのお手伝いが出来たのかなと思います。

草刈りの後は香山先生を囲んでバーベキューです。美味しいお肉と料理を頂きながら楽しいお話を聞かせていただきました。雨天に備え香山

先生がタープを簡単に掛けられるフックを新設して下さっていたのですが、バラバラと降ってはすぐ止んでしまったので活躍せず残念でした。

バーベキューの後は建物を見学させていただいたり時間が瞬間に過ぎてしまいました。

香山先生及び奥様には何くれとなくお世話いただきありがとうございました。

最後になってしまいましたが、準備等ご尽力いただいたJIA長野県クラブの皆様へ感謝申し上げます。楽しい時間をありがとうございました。



## 協力会だより

「だれでもドア」を目指して・・・自動ドアの長野ナブコです。

(株)長野ナブコ 竹内喜久雄



1968年に創業した(株)長野ナブコは、日本の自動ドアのパイオニアである「NABCO」の代理店として、自動ドアの販売・施工・保守サービスを業としてまいりました。現在ではあらゆる建物に自動ドアが使われていて、その中で24時間

365日のサポート体制の確立、安全・安心・快適を実現しストレスの無い移動環境の実現に向けて「だれでもドア」を目指し活動しています。通行したい人だけに反応する、画期的な自動ドアシステム、携帯するだけのセキュリティー認証システム等、様々なご要望に対応させて頂きます。どうぞお気軽にお問い合わせください。

長野市丹波島一丁目805 TEL:026-284-3211 FAX:026-284-1441

木材のいろはから・・・20数年

(有)ナチュラルウッド 南波 健一



法人協会員として皆様にお世話になってから、もうじき10年になろうとしています。

近頃、右も左も真っ暗の中にいた昔の事をよく思い出します。と言いますのも、その暗闇に光明を照らし今に導いてくださった「信州からまつ工業会」前専務理事の三村典彦先生が昨年10月世界された

からです。木材のこと、乾燥のこと、あらゆることを一から手取り足取り教えていただきました。木材加工においては材種や使用環境に副った「乾燥」が最も重要と先生はおっしゃっていました。

あれから20数年、これからは先生の教えを守り、間違いのない製品を皆様にお届けいたします。

上田市小泉910-5 TEL:0268-29-8381 FAX:0268-29-8382

会社名変更のご案内

大阪ガスケミカル株式会社 保存剤事業部 木材保存剤営業部 柏原 亨



当社は4月1日付で日本エンバイロケミカルズ(株)と大阪ガスケミカル(株)を統合し、新たに大阪ガスケミカル(株)として4つ事業分野(炭素材料・ファイン材料・活性炭・保存剤)を展開するスペシャルティケミカル会社としてスタートいたしました。

また、武田薬品工業の、化学・農業関連事業を源泉とした長い歴史と実績に裏打ちされたキシラデコールやキシラモンなどの木材保存剤ビジネスは、長野県下においても木曽妻籠宿などの重要伝統

的建造物群保存地区や善光寺本堂・山門などの国宝や重要文化財、あるいは上高地帝国ホテルなどの山岳ホテル群や河童橋などの外構材、軽井沢や蓼科高原などの別荘地建造物など、多くの新設・改修工事分野で使用されています。

これからは江戸・明治・大正・昭和の貴重な建造物の保存に寄与すべく、保有する高度な技術と豊富なノウハウを結集し、お客様のニーズに対応した新製品開発に積極的に取り組んでまいります。

これからは引続き、ご支援お引立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東京都港区芝2-5-10 芝公園NDビル3F TEL:03-5444-9880 FAX:03-5444-9862 携帯:080-3422-3587

## 協力会 交流イベントのお知らせ

実行委員長 丸山 淳治・(株)ランパーテック

加賀協会長の発案で正会員と協会員が気軽に交流できるイベントとして「ボウリング大会+懇親会」を企画しております。山口長野県クラブ代表他皆様のご理解をいただき開催に当たりまして会予算を計上頂いております。日にちは10月17日(土)で、場所は松本市城山にありますアピナボウルです。15:30受付開始で16:00～スタート(2ゲーム・靴代込のゲーム費用は会負担で無料です)。その後、19:00～松本市大手にあります「おもてなし料理 くさ笛」にて懇親会と表彰式を開催します。懇親会費は人数によりませんが無料が補助があります。ボウリング成績による表彰で景品を多数用意しております。正会員・協会員の皆様、ぜひ多くのご参加をお待ちしております!

### ボウリング大会

日時 10月17日(土) 15:30受付開始

場所 アピナボウル 松本城山店(旧アルピコボウル城山)  
(松本市鎌ヶ崎1-6-21)

### 懇親会・表彰式

日時 10月17日(土) 19:00～

場所 おもてなし料理 くさ笛(松本市大手2-6-20)

### 開催したイベント

- 7月3日(金)・・・フィールドワークin松代・柴石編
- 7月11日(土)・・・第1回幹事会 夏のセミナー・納涼会
- 9月4日(金)・・・上田情報ビジネス専門学校  
ものづくりの楽しさを伝える雑学講座
- 9月9日(水)・・・環境セミナーII  
「知らないでは済まされない結露対策」

### 今後の行事予定

- 10月1日(木)・・・イスラエル建築家協会交流
- 10月8日(木)・・・東京大学安田講堂見学会
- 10月17日(土)・・・会員交流イベント ボウリング大会
- 11月28日(土)・・・第2回幹事会  
冬のセミナー

### 編集後記

文化の秋、様々な行事が行われました。今号は夏のセミナーや出前講座、環境セミナー等に焦点を当てて編集しました。出前講座や環境セミナーでは、JIA長野県クラブの仲間が講師として活躍されました。その様な一つ一つの活動が外向きに情報発信となり、何よりの広報活動だと改めて感じました。

巻頭特集では「建築にまつわるコト」の第二弾として、木工作家・三谷龍二氏に寄稿して頂きました。皆さんに読み応えのある内容となっていると思います。吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲  
発行所/JIA長野県クラブ  
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内  
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303  
<http://www.jia-nagano.com>  
E-mail [info@jia-nagano.com](mailto:info@jia-nagano.com)